

形成外科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	「愛知県における手指切断患者搬送システム(テレトリアージ)の搬送時および病院収容後の治療成績に関わる後ろ向き調査」
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇 学
担当科等	形成外科
研究責任者	助教 坪井憲司
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	名古屋大学大学院医学系研究科四肢外傷寄附講座准教授 建部将広
研究の意義・目的	本研究の目的は、テレトリアージ導入後に救急隊から送られる画像所見と、実際の所見や治療結果を比較することになります。本研究で得られた知見は、テレトリアージ現場の情報収集方法の改善や、システムの改良に役立てられます。本研究を通じ、今後の重度手指外傷救急体制の質の向上が期待されます。
対象となる患者さん	2011年8月1日から2020年3月31日までの間に愛知県内で手指外傷を受傷し、救急隊からテレトリアージシステムを用いて当院に収容された方
研究の方法	2011年(平成23年)8月1日～2020年(令和2年)3月31日までの間に愛知県において手指外傷を受傷し、救急隊からテレトリアージシステムを用いて収容依頼が行われた方の既存情報を使用します。 救急搬送に関して、現場で集められた情報と、搬送先施設にて診療目的で採取された情報を分析します。テレトリアージで用いられる写真情報のうち、どのような要素が重症度判定に役立つのか、医師の間での重症度の判断の比較、写真の質と診断率の関連性などを研究します。また、各症例の治療成績についても調査を行います。
研究期間	倫理審査承認日 ~ 2024年12月31日
研究に用いる試料・情報	年齢、性別、既往歴、身長、体重、手術前画像、レントゲン、手術記事などの診療情報
外部への試料・情報の提供	当院からの研究データ提供に際し、名古屋大学が愛知県から救急搬送に関する情報の提供を受けます。名古屋大学が各症例に研究番号を割り当てます。名古屋大学より情報提供の依頼を受けた当院は、年齢、性別、発生日時、

	救急隊名をもとに、救急搬送に関する情報と患者さんを結びつけます。個人情報 は当院でのみ管理され、名古屋大学とは個人情報を除いた状態で研究データのやり取りを行います。
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年4月30日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学 形成外科 担当者：助教 坪井憲司 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 35700）